

楽器を愛好する市民グループから「練習場所がない。何とかして…」という声が寄せられています。防音設備が整った施設が市内にはないからです。生涯学習センターに防音設備を設備すれば、利用が広がります。

生涯学習センターに防音設備を

市内には、趣味を生かしたさまざまな団体が活動しておられます。守山市文化協会に加入している市民だけでも1300人。各公民館の自主教室は、約100団体以上、登録団体以外にも多数活動されています。

「練習場所がない…」と困っているのは、楽器を愛好するグループ。生涯学習センターの一室で楽器の練習した時、隣接するマンション住民から苦情が出され、その後、他のグループが使用申し込みすると「次回から、使用を許可できない」と生涯学習センターから通知される事態に。このグループは、市内の公民館や体育館など、練習場

所確保に駆けずり回ったものの、民家と離れている会場はほとんどなく、あっても新規での貸出は許可されません。体育館はスポーツ優先。防音の設備がある市民ホールは使用料が高額で、日常的には利用できないというわけです。

夏祭りで太鼓の演奏を披露した伝統文化子ども教室や軽音楽バンドのグループ、和太鼓サークル、市民吹奏楽団など、楽器を演奏するグループや個人は多数おられます。

生涯学習センターは、守山市が力を入れていて「すこやかまちづくり行動プラン」を後押しすべき施設でもありません。高齢者、若年層にかかわらず、市民が生き生きとサークル活動を行う拠点施設として、防音設備が整えば、より多くの利用が広がります。

楽器の演奏ができる場所を



マンションと隣接する生涯学習センター（エルセンター）

東日本大震災から2ヶ月

いまなお深刻な福島原発放射能漏れ事故

死者・行方不明

24812人

観測史上最大規模の地震による被害は、震災から2ヶ月たったいまなお深刻で、死者・行方不明は、24812人。11万人強が避難生活を余儀なくされています。さらに復興の動きを阻んでいる福島原発の放射能漏れ事故は、深刻さを増しており、原発に依存するエネルギー政策のあり方そのものが問われています。

12日、日本共産党湖南地区委員会主催の福井原発研修ツアーに小牧議員・松葉氏が参加します。詳細は次号で。



守山・野洲地域メーデー 210人が元気に

第14回守山野洲地域メーデーが5月1日(日)守山駅東口スポーツ広場で行われ、子ども連れの若い夫婦などを含む約210名以上が元気に集いました。今年のメーデーは、東日本大震災後、初めて全国的規模で開かれる大集会だけに「被災者救援と被災地の復興支援」を全面に掲げ、戦後最大の国難を乗り越え、全国的支援を呼びかける場となりました。

激励の挨拶にたった日本共産党の小牧一美議員は、復興の

動きを阻んでいる福島原発の放射能漏れ事故について、「安全神話」を振りまき安全対策をなおざりにしてきた電力会社と歴代政府に重大な責任があること。この国難を打開するためにすべての知恵と力を結集することの大事さと、福祉を守る国づくり、まちづくりこそが「災害に強い国・まち」をつくることだと強調し、日本共産党はそのために全力を尽くす決意を述べました。

日本共産党
守山民報

守山市議会議員
こまき一美

党守山市くらし対策責任者
まつば栄太郎

TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

TEL 584-3077
FAX 584-3466

日本共産党守山市委員会発行 525号 2011・5・11 TEL 583-8552 FAX 583-1098

毎週木曜日 午後5:45～6:45 守山駅で街頭宣伝しています。